

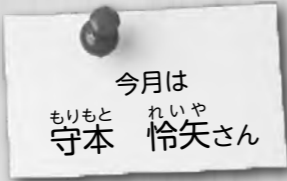
# つむぐ通信

シリーズ連載 その89

「つむぐ通信」では、地域おこし協力隊員が、月替わりで活動内容やイベントなどのお知らせ、地域おこしに関する企画や提案を紹介していきます。

## 【江田島市地域おこし協力隊】

空き家活用ディレクター 蛇草 孝介  
 国際交流支援員 大方 芳恵  
 えたじま里海ナビゲーター 守本 怜矢  
 観光事業総合プランナー 竹林 健一



facebookで情報を発信しています

江田島市地域おこし協力隊



こんにちは！江田島市地域おこし協力隊の守本怜矢です。さとうみ科学館での活動も2年目の半分が過ぎようとしております。ここでの毎日は、江田島市の自然環境の恵みの豊かさを実感させていただけ、ありがたい時間です。だからこそ、僕自身も里海環境を生かした事業を作っていこうと日々画策しておりますので、今回は、それぞれの進捗状況をお伝えさせていただきます！

まず、里海暮らしの実践においては、秋月にある600mほどの海や町が一望できる広い空き地の付いた古民家を購入し、地域の人が集まり楽しめる開かれた場所を作ろうと画策しております！この夏には、京都にある同志社大学の学生団体ハピタットさんに手伝っていただき、8月末から9月頭までの6日間、一緒に草刈りや整地作業、古民家の活用に向けた清掃作業を行っていただきました。学生さんと清掃していくことで、草に覆われた空き地が開放されていき、昔ながらの石積み段差が表れていきました。全体が一望できるようになることで、ここで遊ぶまるる子どもたちや、お気に入りの場所を見つけてくつろぐお客さんの想像が広がり、この里海ならではの景観をもっと多くの方に楽しんでもらいたいと思います。

そして、里海連携においては、(一)



ETAJIMA  
**GoON!**  
 Vol.28  
 峰崎農園 (江田島町)  
 みねさき やすまさ  
**峰崎 泰昌さん**

江田島町出身の峰崎さんは、2016年に江田島市の新規就農研修を修了。キュウリ農家として就農した。大学卒業後、JICAの活動で西アフリカに赴いた。水不足や飢餓もある国の現実を、目の当たりにした。同じ世界にありながら、食料も飲料水にも困らない日本との違い——。帰国後、「農業がやりたい」という強い思いから就農に至る。農業経験ゼロからのスタート。研修生の頃は、水や肥料、湿度と温度の調整、光の当て方など、知識と技術の習熟に悩んだ。量と質の向上は同義だと、経験を重ねて学んだ。「周りの人に、おいしいと食べてもらえるものができるようになったの

## 年数を重ねても、より良いものを追求し続けて



※定植…苗から畑に植え替えること。

は、有難いこと」と話す。昔よりは成長していると振り返りつつ「代々で何十年もやっている農家の方もおられるので、追いつくには、もっと努力しないと」と成長意欲を絶やさないと話している。広報えたじまを読まれている方へのメッセージを伺った。「江田島市は小さな島だけれど、どれだけ言葉を尽くしても足りないほどの魅力がある。この記事で市の特産のキュウリを初めて知った方がおられたら、僕がまだ知らない江田島市の魅力を教えてほしい。遊びに来いよって誘ってほしいですね」。シーズン中はハウスにこもっての作業となる。春秋定植の峰崎農園は多い日で1日約500キログラムを収穫。10月から出荷の秋作は、2月まで続く。



▲海づくり展ポスター



▲海ほたるの観察の様子



▲ハビタット作業風景

社)フウドさんとコラボして、未来の海ごみ回収装置(仕掛け)を子どもたちと一緒に考える企画が進行しております。2ヶ月間かけて募集したアイデアを、11月にはゆめタウンで展示し、表彰式も行う予定です。僕らが密接に関わる海が、少しでも良くなってほしい、そしてより身近に感じてほしいという願いから走り出した企画ですが、僕自身、自分のデザインというスキルを提供できることをうれしく思います。

他にも、さとうみ科学館で行っている海ほたる観察体験をより多くの人に楽しんでもらいたいということと、江田島市観光協会さんとコラボし、広島市近郊に住む方々を対象に、長瀬海岸でのイベントの実施に向けて動いております！瀬戸内海汽船の高速艇に乗船し、遊覧を楽しんだのち、中町で講習を受け実際に採取キットを海に沈め、海ほたるを観察します。自然の神秘はどのように起きて

いるのかを学び、体験を通して何を感ずるのか。子ども達には、素敵な思い出しにさせていただきたいと思っています。

この他にも、様々な提案や取り組みを行っておりますが、僕自身、専門である建築やデザインの力を使っている。この江田島市の環境の価値をより多くの人に感じてほしいと考えています。デザインの意義は、再定義する力にあります。既にある価値を捉え直し、引き上げることが僕の仕事だと思っております。これからも日々邁進していきますので、よろしくお願ひします！